

2020年度

(第56期)

事業報告書

自 2020年 1月 1日

至 2020年12月31日

公益財団法人 国立京都国際会館

目 次

I. 法人の概況	・・・P. 1
II. 事業の概況	・・・P. 2～17
III. 理事会及び評議員会等に関する事項	・・・P. 18～22
IV. その他事項	・・・P. 23～24

I 法人の概況

1. 設立年月日

財団設立	1966年（昭和41年）1月31日
開館	1966年（昭和41年）5月21日
公益法人への移行	2011年（平成23年）3月25日

2. 定款に定める目的

国有の会議場施設の管理の委託等に関する特別措置法に基づき管理の委託を受けた国有の会議場施設を適切に管理し、効率的に運用することにより、国際相互理解を促進し、学術、科学技術、文化等の振興及び地球環境の保全等に寄与することを目的とします。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 政府又は政府間機関による国際会議、学術・科学技術会議等の誘致及び運営事業
- (2) 国際交流と日本文化の普及事業
- (3) 国立京都国際会館の施設管理事業
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 所轄官庁に関する事項

内閣府

5. 主たる事務所・従たる事務所の状況

主たる事務所：京都府京都市左京区岩倉大鷲町422番地

従たる事務所：東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル419

II 事業の概況

1. 総論

2020年度は、前年度の好業績を更に進展させるべく、

- (1) 新たな事業推進力の構築と組織力の向上
- (2) 戦略的営業の展開による使用料収入と事業収益の向上・安定化
- (3) 持続可能な施設運営・管理体制
- (4) 危機対応力とセキュリティ強化

の4つの柱のもとで、具体的な取組をさらに前進させていく計画としていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、4月に予定されていた「第14回国連犯罪防止刑事司法会議（通称：京都コンgres）」をはじめ、3月から7月まではほぼ全ての催事が中止や延期となるなど、事業計画に多大な影響を及ぼし、当館では設立後初めて多額の借入を金融機関から行うなど厳しい経営を余儀なくされました。

しかしながら、5月末の緊急事態宣言解除後は、新型コロナウイルス感染対策の徹底、試験会場としての利用等新規需要の開拓、ハイブリッド会議^{*1}プランの設定やインターネット回線の増強など催事の誘致、開催を確保するためにあらゆる手段を講じるとともに、委託料や人件費などの固定費を中心に経費削減を徹底し、収支の悪化を最小限にとどめるための取組を行いました。

これらの結果、収入については9億5,350万円（前年度比11億4,512万円の減収、予算対比では10億5,900万円の減収）、支出については12億1,180万円（前年度比5億3,565万円の支出減、予算対比では5億6,870万円の支出減）となり、2020年度の経常収支は2億5,830万円の赤字（前年度比6億947万円の減、予算対比では4億9,030万円の減）となりました。

一方で、特定費用準備資金及び資産取得資金の執行については、緊急を要するものに限定し、その他の計画については再考することとしました。結果として、京都コンgres開催に向けた設備更新としてメインホール音響調整卓の更新工事（2,000万円）、可搬型同時通訳設備の導入（1,000万円）、及び機械警備システム（防犯カメラ）設置工事（5,000万円）について執行しました。なおその他に、鹿被害と老木化に伴う庭園整備のため庭園整備事業費（407万円）を執行しました。

その結果、正味財産としては3億213万円の減少（税引前）となりました。

今後も新型コロナウイルスによる影響は不透明であり、且つ、会議の開催形態が変化していくものと考えられます。時代のニーズに沿ったサービス提供に積極的に取組むことで、お客様にご満足いただけるようウィズコロナ、ポストコロナ時代に対応した催事運営に引き続き努めて参ります。

¹ ハイブリッド会議…現地開催に加えてウェブ会議やオンライン配信を組み合わせた会議開催形式のこと。

2. 主な会議開催状況

(1) 開催会議一覧

2020年の開催件数は123件(国際会議3件、国内会議120件)

使用料収入 計8億8千5百万円(会場使用料、付帯設備料他)

会議・催事名	開催日	開催形式	来館者数
公益社団法人 日本青年会議所 2020年度京都会議	1月16日～1月19日	現地	8,000名
第23回日本病態栄養学会 年次学術集会	1月24日～1月26日	現地	5,329名
『ソードアート・オンライン – エクスクロニクル–in KYOTO』	1月31日～2月3日	現地	20,000名
第58回関西財界セミナー	2月6日～2月7日	現地	730名
第11回「KYOTO 地球環境の殿堂」 表彰式	2月11日～2月11日	現地	660名
第50回中小企業問題全国研究 集会 in 京都	2月13日～2月14日	現地	1,900名
第35回日本臨床栄養代謝学会 学術集会	2月27日～2月28日	オンライン	50名
第84回日本循環器学会学術集会	7月27日～8月2日	オンライン	100名
第57回日本リハビリテーション 医学会学術集会	8月19日～8月22日	ハイブリッド	880名
「ウィズコロナ社会における MICE 京都モデル(案)」 第1回検討会議	8月26日	ハイブリッド	30名
第99回日本消化器内視鏡学会総会	9月2日～9月3日	ハイブリッド	790名
JSA/WAO Joint Congress 2020(第 69回日本アレルギー学会学術大会)	9月17日	オンライン	50名
第104次日本法医学会学術全国集会	9月24日～9月25日	ハイブリッド	350名

会議・催事名	開催日	開催形式	来館者数
2020年度日本内科学会生涯教育講演会 Aセッション	9月27日	ハイブリッド	200名
科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム）第17回年次総会	10月3日～10月6日	オンライン	30名
第82回日本血液学会学術集会	10月10日～10月11日	オンライン	50名
第58回日本癌治療学会学術集会	10月22日～10月24日	ハイブリッド	2,680名
第36回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会	11月19日～11月21日	ハイブリッド	600名
第56回日本小児循環器学会総会・学術集会	11月21日～11月24日	ハイブリッド	200名
第50回日本臨床神経生理学会学術大会	11月25日～11月28日	ハイブリッド	450名
第42回日本呼吸療法医学会学術集会	12月20日～12月21日	ハイブリッド	620名
「脱炭素社会構築シンポジウム」～気候変動を踏まえた脱炭素社会の実現に向けて～	12月20日～12月20日	ハイブリッド	100名
第82回耳鼻咽喉科臨床学会	12月24日～12月25日	ハイブリッド	300名

※抽出条件：公開可能な主な会議

※国際会議については当財団基準（政府及び国際機関、企業等が主催し2か国以上の代表者あるいは参加者等が参加する会議）により抽出しています。

※オンライン形式の参加者数は、来館された主催者及びスタッフの数です。

※ハイブリッド形式の参加者数は、来館された主催者及び参加者の数です。

(2) 運営状況、成果等 (開催会議一覧より、抜粋)

①「第 57 回日本リハビリテーション医学会学術集会」

主催：公益社団法人日本リハビリテーション医学会

開催形式：ハイブリッド形式

現地参加人数：880 名

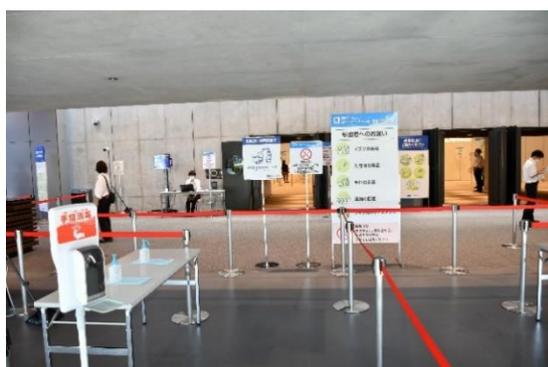
開催日：8 月 19 日～22 日

・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンライン形式での開催が主流となっていた中、現地開催も併せて行いたいという主催者の強い思いの下、大型医学会議としては日本で初めて、現地参加とオンライン参加（LIVE 配信及びオンデマンド配信²⁾）のハイブリッド形式で開催されました。

・参加者は、まずサーマルカメラで検温を行ない、発熱なしと判断された参加者のみ受付を経て入館。各会場は、ソーシャルディスタンスを考慮したレイアウトとし、参加者は各会場に入室する前に、レコーダーに自身の ID をかざし、主催者として全ての参加者の入室ログを取るなど、後日、万が一感染が発覚した際の事後追跡が出来るようなシステムを構築しました。

その他、各所に消毒液を設置、また参加者の導線が重ならないよう各会場の入口と出口を分け通路を一方通行にするなど、徹底した新型コロナウイルスの感染症予防対策をとることで、無事成功裡に終了しました。

・この会議の成功により、万全の予防対策をとれば、現地開催も可能であることが証明され、その後の大型医学会議のハイブリッド開催の先駆けとなりました。



受付エリア(消毒液、サーマルカメラ等)



メイン会場

² オンデマンド配信…あらかじめ動画ファイルを作成しそれをサーバーにアップロードして行う配信方法。

②「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STS フォーラム）」
第 17 回年次総会

主催: NPO 法人 STS フォーラム

開催形式: オンライン形式

現地参加人数: 30 名 (主催者スタッフ等)

開催日: 10 月 3 日~6 日

・ダボス会議の科学技術版を目指して、2004 年に当館にて第 1 回が開催され、今年で 17 回目を迎える STS フォーラムは、世界に共通する科学技術と社会に関する問題をテーマに、世界約 80 ヶ国からの参加者を毎年迎えて開催されてきましたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、初の完全オンライン形式での開催となりました。

・メインホールの舞台上を装飾し、スクリーン上に各セッションのパネリストがオンラインで登場し議論するという方式がとられました。時差の関係から、欧州、米州、アジア等の参加者が参加しやすい時間に合わせて、深夜までオンライン上で議論が交わされました。



開会式



パネリスト(オンライン)

③「第 58 回日本癌治療学会学術集会」

主催：一般社団法人日本癌治療学会

開催形式：ハイブリッド形式

現地参加人数：2,680 名

開催日：10月22日～24日

・本来であれば、約 10,000 名の参加者が来館される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現地参加とオンライン参加（オンデマンド配信）のハイブリッド形式で開催されました（当館14会場、ザ・プリンス京都宝ヶ池5会場、計19のセッション会場）。

・当館とザ・プリンス京都宝ヶ池を会場とし、現地開催の規模を本来より縮小することなく開催されました。受付時のサーマルカメラでの検温、各所の消毒液、ソーシャルディスタンスのレイアウト、導線の確保等、徹底した予防対策をとり、無事成功裡に終了しました。来館者は合計2,680名となり、新型コロナウイルス感染拡大以降では、本年最大数の来館者をお迎えする会議となりました。



メイン会場



展示会場

(3) 開催件数と参加者数

国際・国内	件数 ・参加人数	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
国際会議	開催件数	56件	39件	54件	65件	3件
	参加人数	121,264名	70,615名	92,554名	112,895名	10,056名
国内会議	開催件数	182件	155件	153件	212件	120件
	参加人数	147,870名	100,146名	128,842名	180,440名	68,036名
合計	開催件数	238件	194件	207件	277件	123件

(4) 主な会場の稼働率

会場名	2016年		2017年		2018年		2019年		2020年	
	稼働 日数	率(%)								
メインホール	166	49.0	121	36.0	133	40.0	182	57.0	72	34.0
アネックスホール	146	43.0	102	30.0	135	41.0	166	50.0	115	43.0
イベントホール	119	35.0	91	27.0	144	43.0	154	53.0	126	50.0
ニューホール	-	-	-	-	35	39.0	110	42.0	108	40.0
Room A	146	43.0	102	30.0	102	30.0	163	54.0	116	45.0

算出方法

2020年：稼働日数（設営+準備+本番）÷ 営業日数{365日－（工事・点検実数+休館57日）}

※休館はコロナに係る臨時休館49日（4月13日～5月31日）を含みます。

2019年：稼働日数（設営+準備+本番）÷ 営業日数{365日－（工事・点検実数+休館8日）}

2015～2018年：稼働日数（準備+本番）÷ 営業日数{365日－（工事・点検平均24日+休館8日）}

但し、ニューホール建設年の2018年は工事・点検日を265日としています。

3. 2020年事業計画の4つの柱に基づく取組と結果

(1) 新たな事業推進力の構築と組織力の向上 取組と結果

計画した具体的取組のほとんどは新型コロナウイルスの感染拡大により急遽変更を余儀なくされました。特に職員研修については、当初予定していた一般的な階層別研修に代わって、感染症予防に関する教養講座を実施するなど、当館として新型コロナウイルス感染拡大に対応する組織力の向上を目指しました。一方では、NIWAcaféの開業、隣接施設との企画実施により、新たな取組を推進することができました。

① 「館内の誘導標示等の刷新」、「軽食や喫茶の提供等を通じたパブリックスペースの有効利用」等のために立ち上げた部横断的組織における、若手・中堅を中心とした取組の継続と実現

誘導標示等の刷新については、新型コロナウイルス感染拡大による収支状況の急激な悪化により計画を見直し、既に進行中であった売店エリアのみ実行し、残るエリアについては整備スケジュールを見直すこととしました。

また、軽食や喫茶の提供等を目的としたパブリックスペースの有効活用では、京都の老舗喫茶前田珈琲がプロデュースする「NIWA café」を10月に開業しました。パブリックスペースの有効活用を検討する段階から「NIWA café」開業後のPRまで各部署の若手職員が部横断的に取組を推進し実績を残したことは、組織としての総合力の強化にも大きく貢献しました。

② 目指すべき理念と目標達成に向けた課題解決への新たな取組の着手

京都岩倉の自然に着目した「京都岩倉フォトコンテスト」をグランドプリンスホテル京都（現：ザ・プリンス京都宝ヶ池）と協働で実施。本企画は、新型コロナウイルス感染拡大の影響をほぼ受けずに実施でき、岩倉エリアの良さをアピールし、地域の魅力発信を行うことが出来ました。

③ キャリアプランに基づく階層別研修や専門研修等の職員研修の実施

新型コロナウイルス感染症への対策に伴う業務の増加により、一般的な階層別研修の実施が困難となったことから、新型コロナウイルス対応に係る教養（感染予防策、発生時の対応フロー、IT活用に関する研修等）に特化したものへ変更し実施しました。

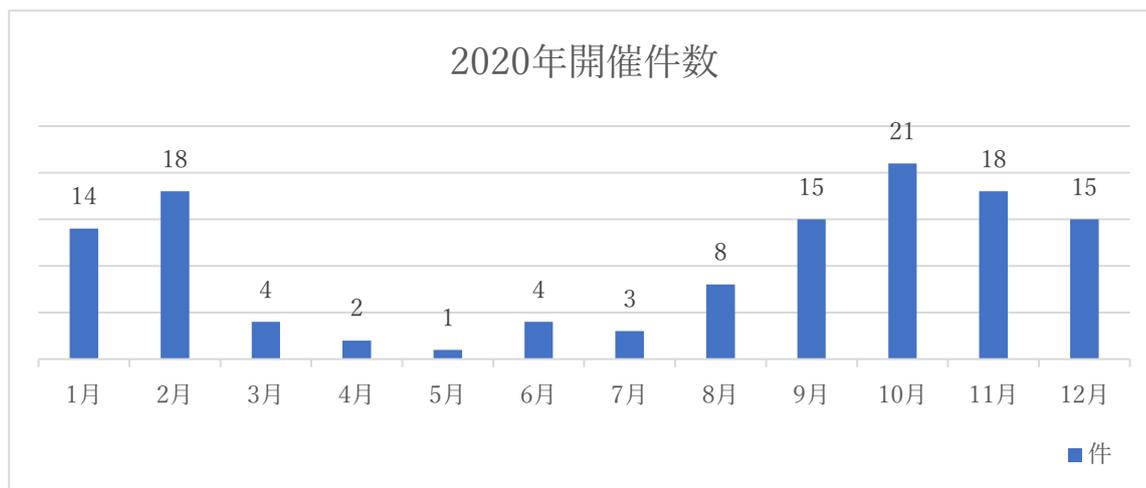
(2) 戦略的営業の展開による使用料収入と事業収益の向上・安定化

取組と結果

2020年は、①増収増益を実現するセールス、②長期的な価値を創造するマーケティング、を具体的取組としていました。しかし、上半期においては、イベント開催自粛に関する政府の見解発表の影響、及び4月の緊急事態宣言の発出により、その直近で開催予定であった催事等は中止、または下半期や翌年以降への延期に関する問合せが相次ぎ、日程再調整の対応に追われました。

しかしながらコロナ禍における取組として、新たな需要の取り込み、「ハイブリッド会議プラン」の提案、キャンセルポリシーの柔軟な適応、及び予約システムのオンライン化を進めるなど、新しい時代に対応する取組を早急に進めました。

その結果、新型コロナウイルスの感染拡大後の新規予約としては31件^{※3}、年間合計123件の催事開催がありました。当初は128件(2020年1月時点)の催事開催を予定していたところ、年間で43件が延期^{※4}、62件が中止^{※4}となりましたが、先述の取組もあり例年の半数以上の開催件数を確保しました。年間の開催件数の推移としては下記の通りです。



³ 新規予約件数は2020年2月～12月に追加になった件数。

⁴ 延期・中止件数は年内延期、翌年以降の延期、及び2020年2月以降の新規予約の延期件数を含みます。

① 新たな需要の取り込み

コロナ禍における催事開催に当たっては、感染予防策の一つとしてソーシャルディスタンス確保が求められたことから新たな需要が生まれました。例えば、試験系催事（職員採用試験、資格試験等）は従来、大学キャンパスや小規模施設での開催が主でしたが、コロナ後は多くのお問合せを頂きました。この流れを受け、当館における4大ホール（メインホール、アネックスホール、イベントホール、ニューホール）の利用が見込める案件の顧客に対し重点的にセールスし、新規案件の取り込みに成功しました。

またその他に、従来はホテル宴会場などを使っていた中小規模催事（採用説明会、企業研修会等）についても、プロジェクトチームを組み積極的な働きかけを行ったことにより、コロナ禍における新たなニーズに応えることができました。

表【新たな需要の取り込みで新規予約に繋がった催事】

学術会議	1件	・・・	「第104回日本法医学会学術全国集会」等
資格試験	15件	・・・	「宅地建物取引士資格試験」、「社会保険労務士試験」等
採用試験	4件	・・・	国家公務員および地方公務員採用試験
就職説明会	2件	・・・	「保育園就職フェア」「京都未来塾マッチング交流会」等
企業会議	8件	・・・	「発表者拡大同窓会」「フォローアップ研修会」等
シンポジウム	1件	・・・	「脱炭素社会構築シンポジウム」
合計 31件 使用料収入 約8千8百万円			

※2021年については、更に大学入試試験等の取り込みにも成功し、2021年の3月時点で合計31件を受注しています。

② 「ハイブリッド会議プラン」を提案

感染リスクを最大限回避した開催手法を模索する主催者の思いに応えるべく、「ハイブリッド会議プラン」の提案に注力しました。催事それぞれの開催規模に分けて、3つのパッケージプランを提示。また開催事例として、実際にハイブリッド形式で開催された会議の感染防止策を当館ホームページ上「新型コロナウイルス特設ページ」に掲載し発信を行いました。これによりウィズコロナ時代における会議開催が可能となり、またオンライン開催への移行に伴う会場利用機会の逸失を回避しました。

表【ハイブリッド形式で開催された催事】

医学会	10件	・・・	「第57回日本リハビリテーション医学会学術集会」等
その他	6件	・・・	「ウィズコロナ社会におけるMICE京都モデル」第1回検討会議 等
合計 16件			

③ 予約申込システムのオンライン化

一昨年より業務のデジタル化に関する取組として、予約申込システムのオンライン化を目指してまいりました。更にこの度のコロナ禍により、多くの企業では在宅勤務が定着、またそれに伴うデジタル化が急激に加速したことで、これまで以上に押印省略や電子ファイルによる受付の必要性が増大しました。

そこで当館で以前より計画を進めていた、予約申込システムのオンライン化の実現に取り組ましました。これにより、ファーストコンタクト（空き状況の問合せ）から仮予約、申込（契約）までの一連の手続きをオンラインで完結することが可能となり、2021年から本格的に運用を開始しています。

④ 誘致状況

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により催事開催が激減したものの、数年先を見越した会議イベントの誘致を目指し、ハイブリッド形式、感染防止対策や京都の魅力発信を中心とした誘致活動に積極的に取り組みました。しかしながら、会議主催者にとって未だ開催の見通しが立たない状況であるとともに、隔年開催の会議については開催地の決定時期がずれ込むなど、大幅な影響を受けました。

(ア) 2020年度中に誘致した会議件数 ※開催年度は2020年に限らない

新規問合せ・誘致案件	79件（2019年105件、2018年94件）
リピーター案件	78件（2019年139件、2018年124件）
合計	157件（2019年244件、2018年218件）

(イ) 主な誘致成功例 ※2021年3月時点で公開可能分のみ掲載

会議名：2022年度人工知能学会全国大会（第36回）

主催者：一般社団法人人工知能学会

参加人数：3,000名

開催日：2022年6月14日～6月17日

誘致決定要因：会場使用計画に関する提案力、ハイブリッド会議の豊富な開催実績

会議名：第31回原子力工学国際会議（ICONE31）

主催者：一般社団法人日本機械学会

参加人数：1,500名

開催日：2023年5月21日～5月25日

誘致決定要因：都市の魅力、国際会議の豊富な開催実績

会議名： 国際昆虫学会議 2024

主催者： 日本昆虫学会

参加人数： 3,000 名

開催日： 2024 年 8 月 25 日～8 月 30 日

誘致決定要因： JNTO・地元機関との連携、充実した提案内容の提供

(3) 持続可能な施設運営・管理体制 取組と結果

当初4月に開催予定であった「京都コンgres」を迎えるため、第1四半期は計画的な機器の更新(メインホールの同時通訳整備、音響調整卓、等)を予定通り行いました。加えて、快適なネット環境の拡充と主催者の負担軽減を図るため、高速通信が可能な催事専用のインターネット回線を7本増設し、従来分と合わせ12回線となりました。これにより、コロナ禍におけるハイブリッド会議への積極的な対応が可能となりました。

一方で、それ以外の計画については、理事会で承認されたものではありませんでしたが、コロナによる収益減により、特定費用準備資金の執行計画に基づく整備を見直し先送りすることとしました。

またその他に、これまでの協力会社・指定業者制度を見直し、数年毎の再公募により事業者を選定する調達制度として「新登録事業者制度」を導入しました。また、2年前からの取組であった年間委託契約の見直し(固定事業者との委託契約から公募制への移行)のうち、残る駐車場業務の公募を行い、見直しを完了しました。加えて、委託業務の確実な遂行管理のため、各業務委託業者との意見交換会を実施し今後の改善へと繋げています。

施設の整備状況

【当財団により行った整備】

① 当財団特定費用準備資金

ア	メインホール音響調整卓更新工事	2,000万円
イ	可搬型同時通訳設備の導入	1,000万円
ウ	庭園樹木等整備	407万円

② 当財団資産取得資金

ア	機械警備システム設置工事(2019~2020)※	5,000万円
---	--------------------------	---------

③ その他(緊急工事)

ア	非常照明用蓄電池更新工事	1,390万円
イ	イベントホール閉鎖型スプリンクラー設備アラーム弁改修工事	160万円
ウ	第1駐車場外灯絶縁改修工事	136万円

【国により行った整備】

④ 国土交通省(施設特別修繕)予算

ア	本館屋上防水改修工事(2019~2020)※	2億9,850万円
---	------------------------	-----------

⑤ 財務省(普通財産維持)予算

ア	メインホール同時通訳設備更新工事	7,700万円
---	------------------	---------

※2020年に一括支払い。

(4) 危機対応力とセキュリティ強化

当初4月開催が予定されていた京都コンGRESSに向けて、88台の監視カメラを増設し既存39台と合わせて計127台となりました。また合わせて、防犯センサー81台を新設し、2月に完備しました。これによりセキュリティーレベルが格段に向上し、有事の際の迅速な対応が可能となり、重要な会議の開催・VIPの来館に備え安全な環境を常に維持できる施設となりました。

また、予定していた自衛消防隊の危機対応力の強化については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、密を伴う訓練の中止など予定変更を余儀なくされましたが、代わりに感染予防策に関する教養講座を実施し、危機対応力の強化を図りました。

(5) ニューホールの拡充について

近年の世界標準である5,000人規模の会議場・展示スペース実現のため、これまで京都市、京都府と連携して国に要望を続けてきた結果、国の2021年度予算案にニューホール拡充の調査・設計費7,500万円が盛り込まれました。

これは2018年度に完成したニューホールを北側の第1駐車場敷地に増築する計画で、拡張後の床面積は約4,000㎡となり、総工費は約52億円が予定されています。

今後、2021年3月末に予算が成立した後、2021年度に基本設計・実施設計が行われ、2023年度から国による建設が着手される予定です。

(6) 社会貢献などその他取組について

① 自主企画（桜さくらスペシャルデイズ、乾杯の夕べ、宝松庵茶会）

例年、春から秋にかけて開催している自主企画（桜さくらスペシャルデイズ、乾杯の夕べ、宝松庵茶会）は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け開催を中止せざるを得ませんでした。

そこでこれらの代替企画として、第一波の感染状況が落ち着いた8月以降から準備を進め、徹底した感染予防策を講じた上で「秋の庭園開放とオータムコンサート」を11月に開催しました。ご参加頂いたお客様からは「久々に外に出て自然に触れることができ息抜きになった」など多くのご好評の声を頂きました。

② ICC Kyoto Open Day の取組

地域の皆様を中心とした市民の方々に当館へのご理解を深めて頂くため、「ICC Kyoto Open Day」の取組を開始しました。

具体的には、10月1日新たにオープンした『NIWA café』（本館1階ラウンジ内、京都の老舗喫茶「前田珈琲」プロデュース）で特別メニューを提供する『NIWA café の日』、ラウンジやビジネスセンターで仕事や勉強ができる『ワーケーションの日』、当館スタッフの説明と案内による特別見学会『建築の日』を設定しスタート。多い日には100名の利用があり、新聞・雑誌等メディアで紹介されるなど話題を呼びました。

③ 環境問題への取組

環境問題への取組として、館内に設置する自動販売機のペットボトル飲料を全廃しました。また、館内飲食店舗では、プラスチックゴミを最小限にすべく、紙容器・紙ストロー・陶器の使用を徹底しています。

4. 新型コロナウイルス感染症に係る取組と結果

(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインの策定

その他の新型コロナウイルス感染拡大への対応として、安全・安心な施設づくりを目指し、緊急事態宣言が解除された営業再開後の6月に「新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン」を直ちに策定しました。

結果として、緊急事態宣言解除後は約3万4千人のご来館をいただきましたが、主催者と十分に連携をとりながらこのガイドラインによる感染症対策を徹底したことによりこれまでに催事開催に伴う感染事例はありません。引き続き安全安心な施設づくりの取組に努めてまいります。

(2) キャンセルポリシーの柔軟な適応

新型コロナウイルスの感染拡大により開催の見通しが立たない状況を受け、本来は3か月前までに取消申出がなければ、会場使用料全額を取消料として徴していたキャンセルポリシーを、1ヶ月前の申出まで取消料免除または減免とする扱いに変更しました。これにより、開催の中止ではなく延期や縮小開催へと選択肢が拡がり、コロナによるダメージの緩和へとつながりました。

さらに、国際会議においては、災害、パンデミック、戦争等の天災や人災が起こった場合におけるキャンセルポリシーを欧米諸国の商習慣に合わせた内容に更改しました。開催決断が困難な状況下にある顧客の立場に寄り添った内容とすることで、安心感をもって将来の催事を企画・開催頂ける施設としての制度を整えました。

(3) 資金調達について

大幅な売上の減少と新型コロナウイルス感染拡大の長期化に伴い、8月に商工組合中央金庫（商工中金）から3億円（借入期間15年、うち元金据置期間5年）、12月に京都中央信用金庫から5億円（借入期間13年、うち元金据置期間3年）、合計8億円の借入を実施しました。

これを2020年～2021年の売上減に伴う運転資金不足の解消に充当することで、安定した資金繰りを確保することとしました。

なお、上記借入金の利子相当額4千7百万円は、MICE開催推進・支援補助として京都市から支給されることが決定しており、2021年3月に支給されました。

Ⅲ理事会及び評議員会等に関する事項

1. 理事会及び役員に関する事項

(1) 理事会

会議の区分	会議の日時・場所	会議の目的事項
第111回 理事会	2020年3月5日 午前11時～12時 会館 Room 510	第1号議案 2019年度事業報告書(案)及び決算書(案)の件 第2号議案 第30回評議員会開催招集の件 第3号議案 特定費用準備資金、資産取得資金の計画変更及び積立の件 第4号議案 2020年度補正予算(案)の件 報告事項 (1) 新型コロナウイルス感染拡大に係る当財団の取組及び影響等 (2) 第14回国連犯罪防止刑事司法会議(京都コンGRESS)の準備状況 (3) 施設の整備状況 (4) 2020年度開催予定催事等
理事会 (書面表決)	2020年3月23日	第1号議案 明石康を理事長に選定する件 第2号議案 村田純一を副理事長に選定する件 第3号議案 内田俊一を常任理事に選定する件
理事会 (書面表決)	2020年7月10日	議案 資金調達実施の件
第112回 理事会	2020年12月4日 午後1時30分～ 午後2時30分 会館 Room D 現地及び オンライン	第1号議案 2021年度事業計画書(案)及び収支予算書(案)の件 報告事項 (1) 新型コロナウイルス感染拡大の影響と対応 (2) ニューホール拡充への動き

(2) 役員の変動

氏名	異動年月日
明石 康	2020年3月23日 重任
内田 俊一	2020年3月23日 重任
門川 大作	2020年3月23日 重任
立石 義雄	2020年3月23日 重任
西脇 隆俊	2020年3月23日 重任
村田 純一	2020年3月23日 重任
山極 壽一	2020年3月23日 重任
立石 義雄	2020年3月31日 辞任
塚本 能交	2020年4月1日 新任

(3) 役員氏名

※（理事長・副理事長・常任理事・理事・監事の順で）五十音順

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	明石 康	理事	藤崎 一郎
副理事長	村田 純一	理事	堀木 エリ子
常任理事	内田 俊一	理事	堀場 厚
理事	上村 多恵子	理事	松下 正幸
理事	門川 大作	理事	湊 長博
理事	塚本 稔	理事	山極 壽一
理事	塚本 能交	監事	西田 憲司
理事	西脇 隆俊	監事	彦惣 弘

理事長1名 副理事長1名 常任理事1名 理事11名 監事2名 計16名（2020年12月末日現在）

2. 評議員会及び評議員に関する事項

(1) 評議員会

会議の区分	会議の日時・場所	会 議 の 目 的 事 項
第 30 回評議員会	2020 年 3 月 23 日 午前 11 時～12 時 会館 Room C-2	第 1 号議案 評議員議長及び副議長選任の件 第 2 号議案 2019 年度決算書（案）の件 第 3 号議案 理事選任の件 報告事項 （1）2019 年度事業報告書 （2）新型コロナウイルス感染拡大に係る当財団 の取組及び影響等 （3）第 14 回国連犯罪防止刑事司法会議（京都コ ングレス）の準備状況 （4）2019 年 12 月 3 日開催の「理事長と評議員との懇 談会」で指摘された事項に対する対応 （5）2020 年度開催予定催事等

(2) 評議員の異動

なし

(3) 評議員氏名

※五十音順

役職名	氏名	役職名	氏名
評議員	阿南 史代	評議員	清野 智
評議員	池坊 由紀	評議員	千 容子
評議員	石毛 博行	評議員	手嶋 龍一
評議員	井上 正幸	評議員	寺島 実郎
評議員	井村 裕夫	評議員	中尾 一和
評議員	内海 善雄	評議員	服部 重彦
評議員	大倉 治彦	評議員	廣瀬 茂夫
評議員	岡田 憲和	評議員	真砂 靖
評議員	小倉 和夫	評議員	三木町 宣行
評議員	柏原 康夫	評議員	山下 晃正
評議員	齊藤 修	評議員	吉村 彰彦
評議員	酒井 伸一		

評議員 計 23 名

(2020 年 12 月末日現在)

3. 役員等候補選出委員会及び委員に関する事項

(1) 役員等候補選出委員会

会議の区分	会議の日時	会議の目的事項
第12回役員等候補選出委員会	2020年2月14日 午前10時40分～ 午前11時30分 会館 Room 552	議案 理事候補者選出の件

(2) 委員の異動

なし

(3) 委員氏名

※五十音順

役職名	氏名
委員	池坊 由紀
委員	井村 裕夫
委員	岡田 憲和
委員	齊藤 修
委員	服部 重彦
委員	真砂 靖
委員	山下 晃正

委員7名(2020年12月末日現在)

IV その他事項

1. 施設の管理再委託契約に関する事項

当公益財団法人と京都市が締結している管理再委託契約の施設の内容は次のとおり。

(注：国と京都市との国有財産管理委託契約に基づく)

区 分	種 目	名 称	数 量
土 地	宅 地		m 156,096.77
立木竹	樹 木		本 798
建 物	事務所建	会議場	m 14,693.54
			37,786.48
	事務所建	展示場	4,860.69
			7,976.58
	事務所建	展示施設	3,004.03
			3,905.21
	雑屋建	車寄	126.11
			126.11
	雑屋建	ポンプ室	189.93
			189.93
	雑屋建	渡廊下 (連絡歩廊)	972.65
			972.65
	雑屋建	渡廊下 (連絡歩道橋)	188.24
			188.24
	雑屋建	渡廊下 (既設地下鉄 出入口上屋)	9.33
			9.33
	倉庫建	ごみ容器 置場	16.43
			16.43
	小 計		24,060.95
			51,170.96
工作物			— 式
合 計			

2. 休館日に関する事項

2020年度中に、次の日を休館としました。

1月 1日(水)～ 1月 4日(土)	4日間	年始休館
4月13日(月)～ 5月31日(日)	49日間	臨時休館
11月30日(月)～12月 1日(火)	2日間	臨時休館
12月28日(月)～12月31日(木)	4日間	年末休館

3. 事務局職員に関する事項

区 分	男	女	合 計
館長(常任理事)	1	0	1
事 務 局 長	1	0	1
副 事 務 局 長	1	0	1
総 務・企 画 部	9	5	14
施 設 部	11	1	12
営 業 推 進 部	9(2)	8	17
合 計	32	14	46

()は出向者内数

(2020年12月末日現在)

4. 組織改正に関する事項

なし

5. 規程整備に関する事項

なし